

やまぐちっ子学力向上だより

第 109 号 R2.10.20
山口県教育庁義務教育課

令和2年度中学校英語指導力スキルアップ研修会

9月15日に中学校の教員を対象に英語指導力スキルアップ研修会を開催しました。

研修の前半では、文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 山田誠志氏による講演を行いました。講演では、新学習指導要領の趣旨を踏まえて中学校英語の授業づくりと評価について説明していただきました。

研修の後半は、グループでの協議を行いました。技能統合型の授業づくりとペーパーテストの改善について、熱心な情報交換が行われました。

参加者の感想を一部紹介します。



山田教科調査官による講演の様子

【講演】

- 研修をとおして、授業づくりに対してモチベーションが上がりました。
- 山田調査官が、エネルギーにユーモアを交えながら説明してくださったので、大変分かりやすく、来年度に向けて、現在やっていることを見直しながら改善していこうという意欲がわいてきました。
- 明日の授業から、子どもを信じて、「読んだら話す」活動を取り入れてみたいです。
- 評価について、新観点をどう捉えるのか、視点が少し見え始めました。また、評価のために、自分の指導やテスト内容に改善を加えていく必要性がよく分かりました。
- 講演の内容がとても実用的で、これから何を変えていけばよいのかが分かりました。学校の教科の教員同士で共通理解する必要があると思いました。

【協議】

- 他市、他校の先生方の取組を知る機会が少ないので、とても参考になりました。
- 現在のテストをいろいろな先生と見ながら、「ここは来年度も使える」「ここはマイナーチェンジ」と確認し合えたことで、判断に自信がもてるようになりました。
- 「これでいいのか」と今までは、手探りで行っていましたが、他の先生方の話を聞くことができ、安心しました。
- 評価についての悩みや講演の内容について話し合うことができ、勉強になりました。
- 技能統合型の実践例がとても参考になりました。

各教科における学習評価のポイント

各教科における「指導と評価の一体化」のための学習評価のポイント

本資料では、各教科における評価方法や評価の場面、留意点等の例を紹介しています。
 日々の授業においては、『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料（国立教育政策研究所）や本資料を参考にしながら、授業の質の向上を図り、子どもたちに未来の創り手となるために必要な資質・能力を育んでいくことを期待しています。



教育庁義務教育課

小学校外国語「学習評価の評価方法・場面」等の例

評価の種類	方法	頻度	留意点等	知	想	態
指導の改善に生かすための評価	机間観察	毎時間	・どの程度身に付いているかを把握する。 ・目的や状況に応じている等の英語内容を取り上げて紹介する。	○	○	△
	ペアワーク（やり取り）	毎時間	・共通する誤りや表現できない内容等（内容面・言語面）を取り上げて全体で考えながら修正する。	○	○	△
児童の学習状況、教員の指導改善に生かすための評価	振り返り（感想等）	3、4回/単元	・CAN-00リストと関連付ける。聴取に関連する記述を紹介する。	△	○	○
	確認問題	必要に応じて	・言語材料や技能の定着を確認するリスニング等を実施する。	○	○	○
観点別学習状況の評価	パフォーマンス（やり取り）	1、2回/学期	・児童同士、または教師やALTとのやり取りにおいて、優れたパフォーマンスはどこが優れているか紹介する。→不十分であれば全体で考えながら修正する。	○	○	○
	机間観察	観点を絞って	・粘り強くやり取りしようとするなどの態度で優れているもの等を取り上げて評価に反映する。	△	○	○
観点別学習状況の評価	ペアワーク（やり取り）	必要に応じて	・タスクの達成度だけで評価しない。「知識・技能」「思考・判断・表現」と関連付けて評価する。数ベアしか評価できない点に注意する。	○	○	△
	振り返り（感想等）	3、4回/単元	・自ら学習に目標をもつなどのよい記述は評価に反映する。「授業がおもしろかった」等の「知識・技能」「思考・判断・表現」と関連のない記述のみを取り上げて評価の対象にしない。	△	○	○
（重点ごとに評価し、授業の学習状況や単元時に転えるもの）	机間観察	観点を絞って	・学習内容をベースにペーパーテストを実施することも考えられる。	○	○	○
	パフォーマンス（やり取り）	必要に応じて	・CAN-00リストと関連付けて、外国語科の目標が達成できているかを確認する。	○	○	○
児童自身が行う学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにする。	パフォーマンス（やり取り）	1、2回/学期	・ルーブリックに照らし合わせた評価結果を提示し、できるようにしたことを経る。その上で、児童自身で成果や課題を明らかにさせ、次の単元に向けた目標をもたせる。	○	○	○



児童自身が行う学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにする。

県教委では「各教科における『指導と評価の一体化』のための学習評価のポイント」を作成し、義務教育課のWebページに掲載しました。本資料では、各教科における評価方法や評価の場面、留意点等の例を紹介しています。

日々の授業においては、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」（国立教育政策研究所）や本資料を参考にしながら、授業の質の向上を図り、子どもたちに未来の創り手となるために必要な資質・能力を育んでいくことを期待しています。



各教科における「指導と評価の一体化」の学習評価のポイント（県教委）



「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（国立教育政策研究所）

授業アドバイザー派遣制度

県教委では、授業づくりや校内研修の一助となるよう、授業アドバイザー派遣制度を設けています。本制度は、山口大学教育学部附属学校の教員を各学校に派遣して、授業づくりや校内研修の相談等、授業力の向上を支援する仕組みです。全教科で指導助言が可能で、旅費等もかかりません。また、本年度から、プログラミング教育の研修に対応できる附属学校もありますので、是非御活用ください。既に2次募集は締め切ってはおりますが、御希望がありましたら、対応できる場合もありますので、市町教育委員会に御相談ください。



山陽小野田市立小野田中学校での校内研修の様子